

観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



㈱オリバー 首都圏 SE 室長 稲垣雅夫氏

創業 150 年の歴史を持つ 富田染工藝

今、伝統小芸の素材・技術を生かし、現代のライフスタイルに合わせた新しいデザインのプロダクトが創り出され注目されています。

国際観光施設協会インテリア分科会は、建築・インテリアに深く関わりを持つ伝統工芸とその素材や部材に目を向けて、新しい方向性を探り

生かしていきたいと考え、伝統工芸の工房や現場を探訪する企画を起しました。

今回は富田染工藝さんへお伺いしました。同社は江戸小紋の染物を全行程自社で製作していま

す。着物の反物以外にも風呂敷、ネッカチーフ、ストール、ネクタイ等を製作しています。創業 150 年、現在の地に来て 90 年とのことです。

建物位置は都電荒川線早稲田駅と面影橋の中間の神田川沿いにあり、まわりはマンションばかりですが、富田染工藝の建物は雰囲気ある木造 2 階建、入口を入ると染の作業場、その奥が型紙の収納棚、染料加工場と続いています。富田社長にお話をお伺いしました。

神田川沿いに染物屋は現在 70 社、



作業場

最盛期には 400 社あったそうです。東京オリンピックまではこの川で少しぐらいの汚濁も水量が多いので水洗いができたそうですが東京オリンピックを機に河川汚濁防止条例が施行されて禁止された今は、水槽を使ってジェット水量で水洗いをしているとのこと。

組合は 30 年前で 60 社あったそうですが今は 16 社に減ってしまい富田さんは着物の再興を願って染に徹してがんばると話していました。

新しい傾向としては男性の着物も



入り口



型紙収納棚

増えているそうです。

3種類の型染を作り出される「江戸小紋」

江戸小紋は型紙を染める反物(0.36×13m)に置き色数に合わせて連続して防染の糊を引きます。型紙は渋紙(美濃和紙に柿渋加工したもの)に手掘りの技法で模様を切り抜いたものを伊勢型紙の名称が知られています。

江戸時代の参勤交代の大名が江戸で着る袴に型紙で家紋を染めたそうです。その家紋の型紙の管理をするために堀師を庇護しました。紀州藩の飛び地の鈴鹿市白子町で制作させたので伊勢型紙の名称になったそうです。型紙に彫られた型によって染め模様をつくり出す「型染め」には、大紋・中紋・小紋の3種類があります。また、小紋柄には、霞・鮫・籠目などの柄がありましたが、これら

は家によって使う柄が決まっており、他家のものを使うことはできない場合もあったそうです。江戸時代中頃になると、小紋は庶民のあいだでも用いられるようになり、自由で粋な感覚の洗礼を受け、現代に続いています。

染の種類

- ・手で描く 友禅染
 - ・型紙 小紋、更紗、紅型等
 - ・絞り 有松、匹田、京鹿の子等
 - ・無地 煮染め、ひき染め等
- 織物と染物の違い
- ・織物は先染め
 - ・染物は後染め

お話をお伺いした後、作業場にて各自で染の実践を体験させていただきました(有料)。江戸小紋はこれからのインテリアの素材としては使えそうですが、コストと効果の見合いが大事だと思いました。
追) 富田社長は東京伝統工芸士に認定されています。



江戸小紋の柄例



レクチャー風景



伊勢型紙



東京伝統工芸士



型染実践風景

